

狩猟今昔

郡上市教育委員会 教育委員 原 初次郎

最近よく里山ではなく街中まで熊や鹿が現れるようになり、猿などは電線を伝い屋根から屋根へと我が物顔である。私が居住する地区は集落を囲むようになりかなりの範囲で柵を設け被害防止をしている。まるで人間が檻の中で生活しているようである。

私は現在猟友会の会員である。有害駆除や豚コレラの予防をおこなっている。私が趣味の一環として狩猟を始めたのは22, 23歳頃であり、父親の影響が大きかったように思う。当時は地元猟友会におおよそ100名くらいの会員が加入していた。現在のように罾猟だけをする人ではなく、全て狩猟銃を所持していた。私の所持した猟銃といえば友人から譲り受けた旧式の20番単発銃、弾は真鍮ケースに黒色火薬を詰めた手作りであった。射撃もでき大物猟もできる上下2連銃を入手したのは30代になってからである。以前は猪や鹿、猿、更にはカラスも今のようになかった。猟友会員も年々減少したが皮肉にも平成に入った頃から野獣が増え始め、農作物や庭木等の獣害が増加し、駆除の要望も多い中、会員の高齢化や銃規制の厳格化などの問題もあるが、猟友会員の新たな人材確保も急務となっている。

始めた当初は仕事の休みに一人で犬を連れ、野山を歩き回り山鳥を獲るくらいだったが、いつか大物猟がしたいと強く思っていた。

年に何度か猟友会主催の共猟会が催され、それに参加することにより大物猟を経験することができるようになった。共猟会当日の早朝は狩場を「見切り」といって獲物の足跡を探り出し、大きさや数、そして行動範囲と方向を見切り、待機する仲間(待ち)と犬と共に獲物を射手のいる方向に追い出す(勢子)に分かれて多人数で行う巻狩りという狩猟法を行った。ほとんど勢子を務めていたが待ちに入ると合図があるまであれこれ想像しながら待ったものである。

罾猟も行っているが、罾を踏ませるのが思った以上に難しいものである。自分には感じない匂いが、野生動物には分っている。野獣も学習能力があり、生きていく上の知恵であろう、年々賢く進化し数も増えている。猟人や農業者が減少していく中、獣害駆除は人と野生動物との知恵比べである。この知恵比べは野獣に軍配が上がるのではないかと危惧している。

私自身、あと何年銃を背負い山を歩けるか疑問であるが、野生動物との駆け引きの面白さや知恵比べは捨てがたく、今年も何回目かの銃所持更新の手続き中であり、今冬の猟期が待ち遠しい昨今である。

将来の夢

御嵩町教育委員会 教育委員 田中妙子

小学校の訪問の際、楽しみにしている事があります。教室に掲示してある児童のプロフィール、将来の夢について記入してある欄をみさせて頂く事です。

少し前に気が付いたのは、ユーチューバーやプログラマー等、私が子供の頃にはなかった仕事がかかれてある事です。なるほど楽しそうな仕事に見えるのかな？でも実際にやってみると大変な仕事だぞ。大人のお節介な目で見てしまいます。しかしながら、私が子供の頃の将来の夢のトップはスポーツ選手だったりしていたので時代が変わっても憧れる職業は華やかに見えるが大変な仕事かな、なんて思ったりします。

あと他に今年気が付いたことは、何も書いていない児童がちらほらみられる事です。小学生ですから、自分の将来をしっかりと考えて、なんて言うのは難しい事だと思います。しかし、「なんとなくこんな事に憧れる。」の一つや二つはあるものは？それを書けないというのは、ある意味自分自身を深く見つめ、手の届かなそうな夢や、何となくの夢は書きたくないのでは？なんて事も考えたりもします。

いずれにせよ、将来の夢を考えることは子供でも大人でも大切な事です。児童の皆さんの将来の夢を見させていただき、どんな大人になるのかなあ、想像を膨らませ、自分の事も見つめ直し、小さな夢を抱き、もう少し頑張ろうかな。と思う私です。

児童の皆さんからエネルギーをもらっている。そんな楽しい学校訪問です。